

## 令和4年度 Web NDL Authorities (国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス) に関するアンケート結果の概要

### 1. アンケート概要

調査期間 : 令和4年9月1日(木)から11月30日(水)まで

有効回答数 : 219件

調査項目 : 全11問(選択式8、自由記述式3)

### 2. 回答内容の分析<sup>1</sup>

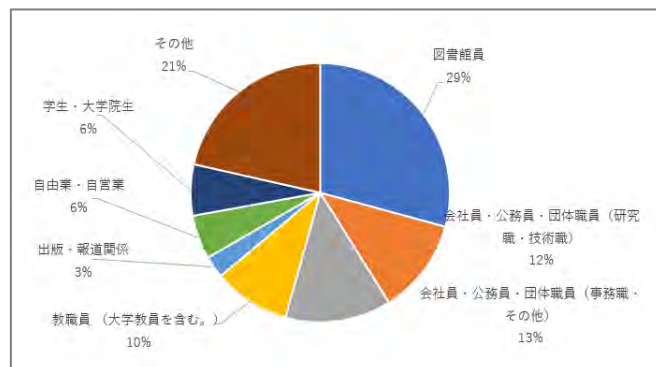
(要旨)

- ・回答者の属性別では、図書館員の回答が最多であった。図書館員は利用頻度も高い。(2-1<sup>2</sup>、2-3-1)
- ・図書館員は、読みや生没年、分類記号等の典拠データの情報自体の利用が最も多いのに対し、図書館員以外の利用者は、典拠データを使った資料検索のための利用が最も多い。図書館員以外の利用者でも、著作権情報(没年情報)の確認、音訳・点訳作業のための読みの調査等、典拠データの情報自体の利用も多く挙げている。(2-4-1、2-4-3)
- ・典拠データを通じて外部データベースの情報を参照するために利用するという回答も複数にのぼり、自由記述では、LCSH とのリンクを評価する、他の関係機関との連携を求めるとの意見があった。同じく自由記述では、NDL サーチとリンクしてほしい、NDL オンラインでも典拠 ID から検索できるようにしてほしいなど、当館が提供する他のサービスとの連携を求める声が寄せられた。(2-4-1、2-6)
- ・改善要望では回答者の属性による傾向の変化は少なく、全体として、典拠作成対象の拡大や、生没年(特に没年)追記等、典拠データの内容の拡充を求める意見が最も多かった。(2-6)
- ・今回初めて満足度を問うたところ、90%の高い評価を得た。ただし、利用頻度が高い回答者ほど満足度が高く、不慣れな回答者は満足度が低くなる傾向にある。また、サービスの仕組みがわかりにくいといった指摘のほか、そもそも Web NDL Authorities が知られていないのでもっと PR した方がよいとの意見があった。(2-5、2-5-2、2-6)

#### 2-1 回答者の属性

「図書館員(64件:29%)」が最多であり、「会社員・公務員・団体職員(事務職・その他)(29件:13%)」「会社員・公務員・団体職員(研究職・技術職)(26件:12%)」の順に続く。

平成30年度に続き、「図書館員」が最多となったが、回答者全体に占める比率は42%から29%に減少している。その背景として、今年度は、NDL公式Twitterによる広報を積極的に行ったことが影響していると考えられる。



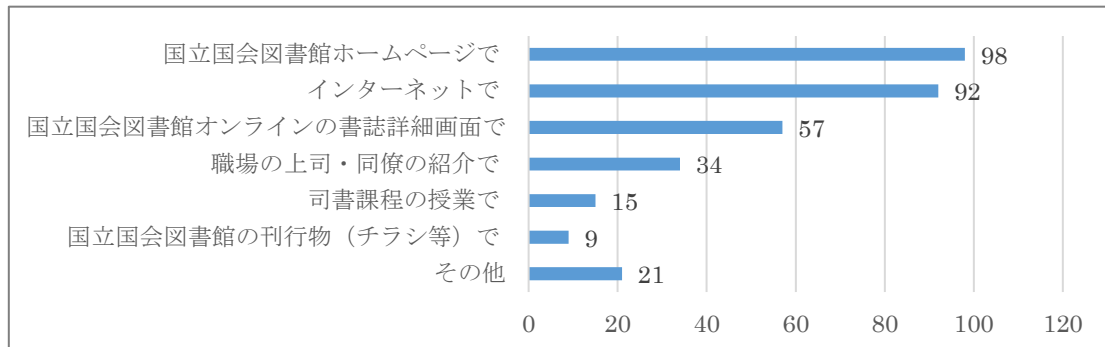
<sup>1</sup> 本文中の百分率は、各質問の有効回答数を母数にしている。「(選択式、複数回答可)」とあるものは、合計が100%を超える。

<sup>2</sup> 本アンケート結果の概要における項目番号を指す。以下同様。

回答者の属性 (n=219 件)

2-2 Web NDL Authorities を知ったきっかけ (選択式、複数回答可)

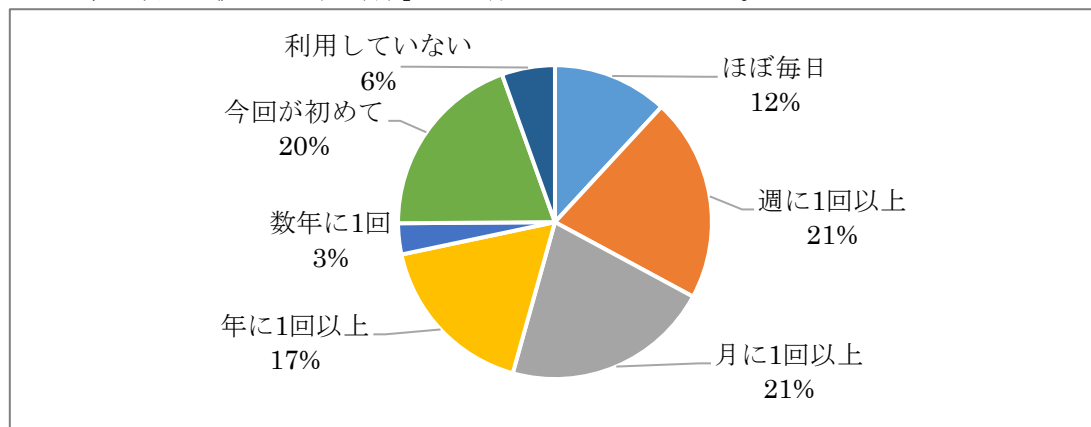
平成 26・28・30 年度と同様に「国立国会図書館ホームページで (98 件 : 45%)」が最多であった。次いで、「インターネットで (92 件 : 42%)」、「国立国会図書館オンラインの書誌詳細画面で (57 件 : 26%)」、「職場の上司・同僚の紹介で (34 件 : 16%)」が多く見られた。



Web NDL Authorities を知ったきっかけ (複数回答可) (n=219)

2-3 利用頻度

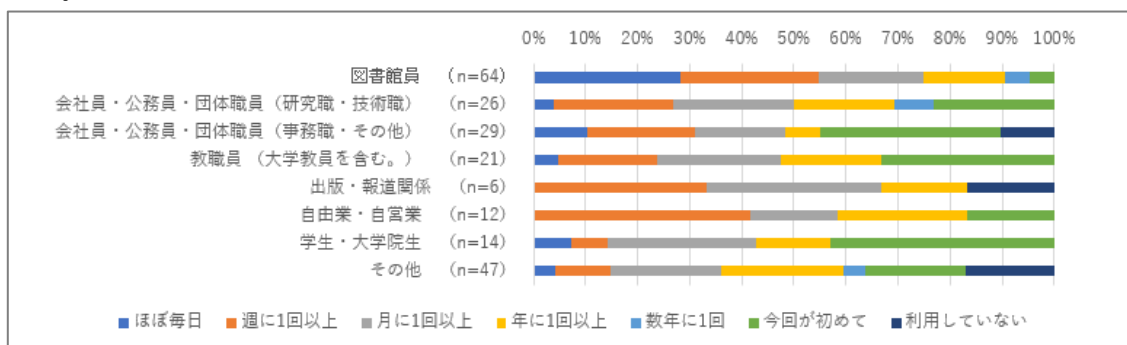
利用頻度 (単一回答) では、「月に 1 回以上 (47 件 : 21%)」、「週に 1 回以上 (46 件 : 21%)」、「ほぼ毎日 (26 件 : 12%)」で、月に 1 回以上利用している回答者が全体の 54% を占めた。その一方で、「今回が初めて (43 件)」が全体の 20% にのぼった。



利用頻度 (n=219)

2-3-1 利用頻度 (回答者の属性別)

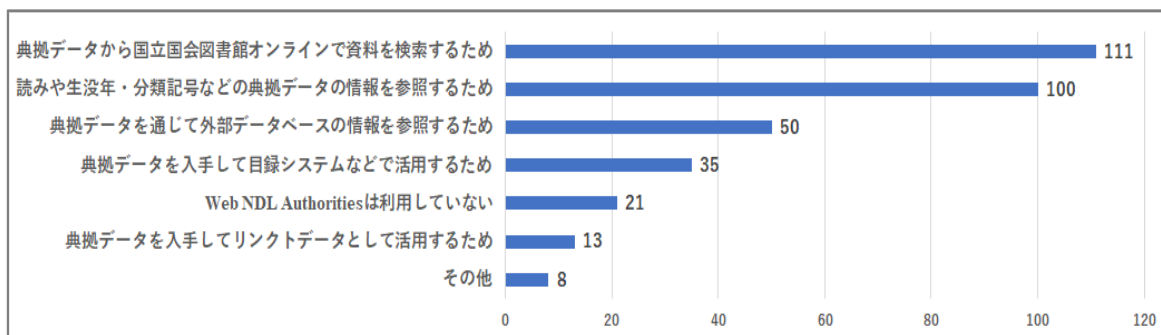
利用頻度を回答者の属性別にみると、図書館員 (n=64) の 75% が月に 1 回以上、55% が週に 1 回以上利用していた。図書館員を除くと、月に 1 回以上利用する割合は 46%、週に 1 回以上の利用は 24% であった。特に、母数は少ないものの、出版・報道関係 (n=6)、自由業・自営業 (n=12)、会社員・公務員・団体職員 (研究職・技術職) (n=26) の順で利用頻度が高い傾向にある。



### Web NDL Authorities の利用頻度（属性別）

#### 2-4 利用状況

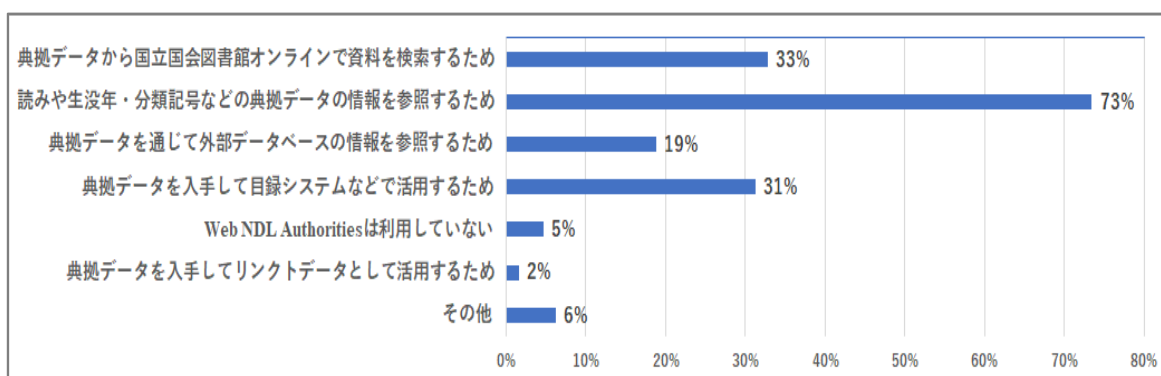
利用目的（選択式、複数回答可）では、「典拠データから国立国会図書館オンラインで資料を検索するため（111件：51%）」、「読みや生没年・分類記号などの典拠データの情報を参照するため（100件：46%）」、「典拠データを通じて外部データベースの情報を参照するため」（50件：23%）」が多数を占める。



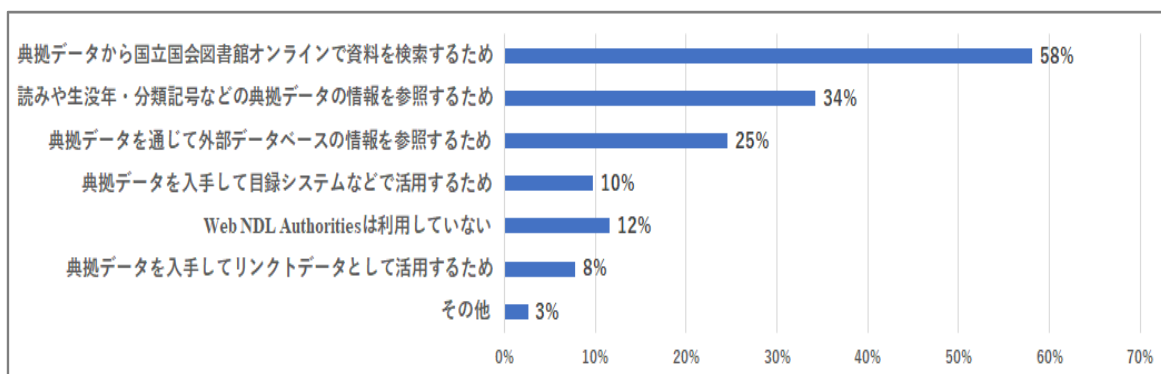
利用目的（複数回答可）（n=219）

#### 2-4-1 利用目的（回答者の属性別）

属性別にみると、図書館員（n=64）の73%が「読みや生没年・分類記号などの典拠データの情報を参照するため」を利用目的として回答しているのに対し、図書館員以外の回答者（n=155）は、どの属性も「典拠データから国立国会図書館オンラインで資料を検索するため」が最も多かった。



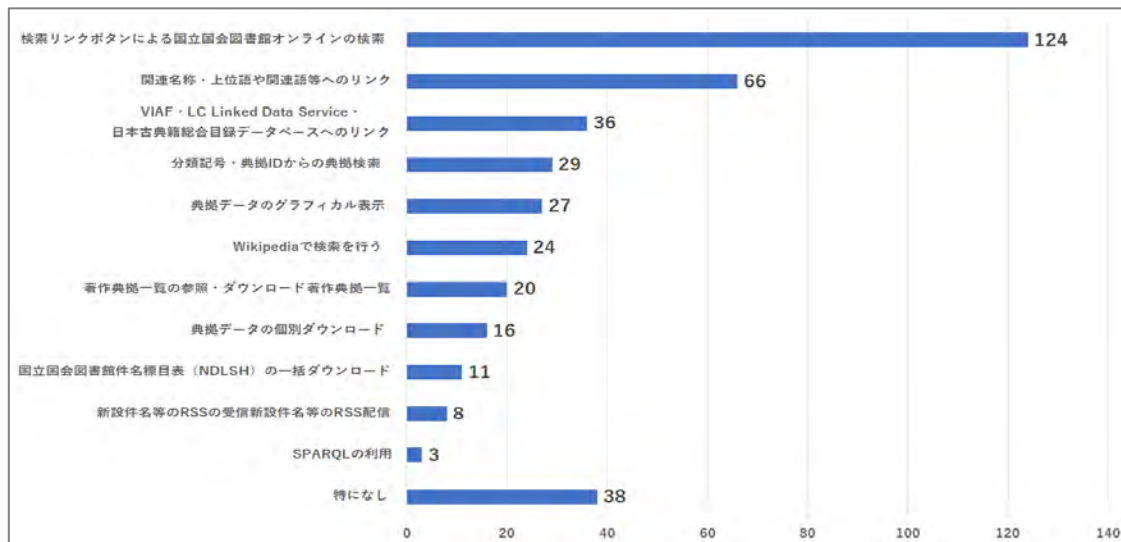
図書館員の利用目的（複数回答可）（n=64）



図書館員以外の利用目的（複数回答可）（n=155）

### 2-4-2 よく利用する機能

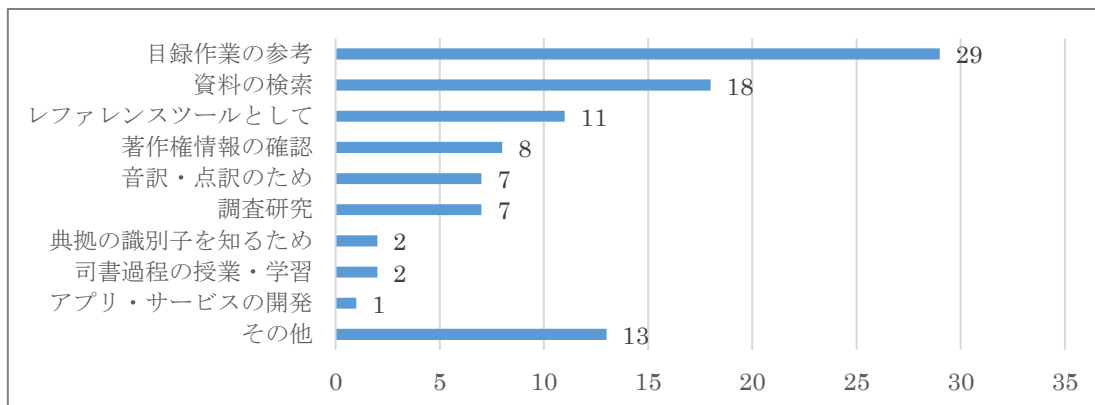
よく利用する機能（選択式、複数回答可）としては、「検索リンクボタンによる国立国会図書館オンラインの検索（124件：57%）」が最も多く、「関連名称・上位語や関連語等へのリンク（66件：30%）」、「VIAF（バーチャル国際典拠ファイル）・米国議会図書館 LC Linked Data Service・日本古典籍総合目録データベースへのリンク（36件：16%）」が続いた。これらは平成26年度以降の回答とほぼ同様の傾向である。



よく利用する機能（複数回答可）（n=219）

### 2-4-3 具体的な利用状況

具体的な利用状況（自由記述）の傾向は次のグラフのとおり類型化できる。最も多かったのは、「目録作業の参考」であった。



具体的な利用状況（自由記述）

上位5類型に見られる主な利用状況は次のとおり。なお、今回のアンケートで当該サービスを初めて知ったとの回答も複数見られた。

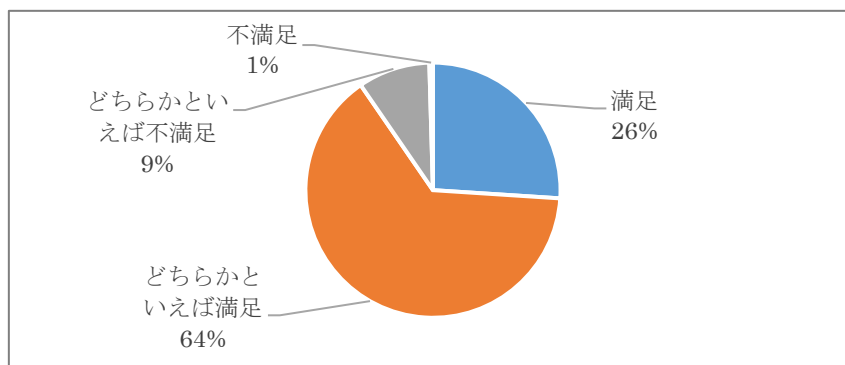
- ① 目録作成の参考
  - ・資料に付与する適切な件名を、分類記号検索やグラフィカル表示を用いて確認
  - ・資料の分類付与（NDLC、NDC）の参考に、件名の代表分類を確認
  - ・著者名の読み・英語表記・別名を確認
  - ・自館で作成する典拠ファイルの情報源の確認
- ② 資料の検索
  - ・Web NDL Authorities で著者名の別名を確認し、NDL オンラインやNDLサーチで検索
  - ・Web NDL Authorities で件名の上位語・関連語を確認して、NDL オンラインで関連資料を

検索

- ③ レファレンスツールとして
  - ・人名辞典等に掲載されていない人物を調査
  - ・著者の表記の揺れや別名を調査
  - ・外国人名における姓と名の区別の根拠を調査
- ④ 著作権情報の確認
  - ・自館デジタルアーカイブで提供する資料の著作権保護期間を確認
  - ・青空文庫に作品を収録する際に没年を確認
  - ・個人向けデジタル化資料送信サービス対象資料の著作権保護期間を確認
- ⑤ 音訳・点訳のため
  - ・録音・点字資料の作成に当たり、著者名の正しい読み方を確認

2-5 Web NDL Authorities の満足度

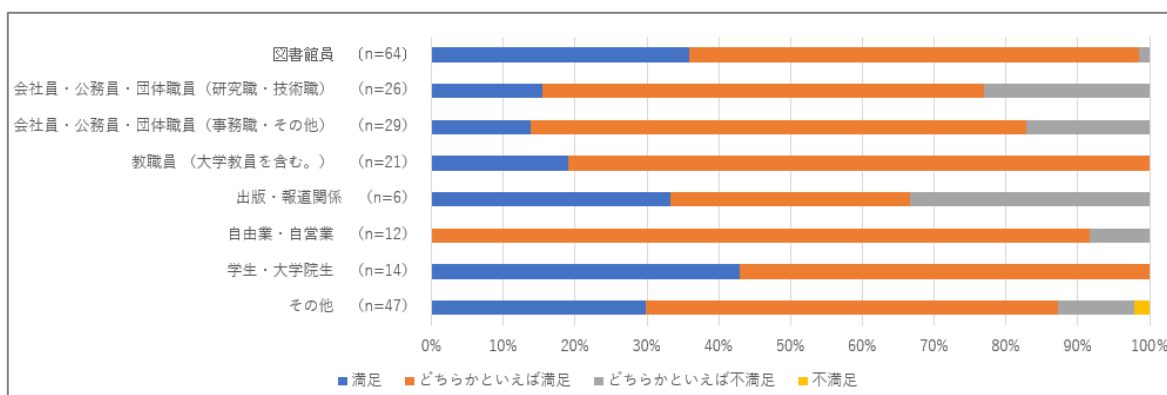
今回の個別アンケートで初めて満足度を問うたところ、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせて 90%だった。



満足度 (n=219)

2-5-1 満足度 (回答者の属性別)

満足度を回答者の属性別にみると、教職員 (大学教員を含む。) 及び学生・大学院生の満足度がそれぞれ 100%、図書館員が 98%と高かったのに対し、出版・報道関係 (67% (n=6))、会社員・公務員・団体職員 (研究職・技術職) (76.9% (n=26))、会社員・公務員・団体職員 (事務職・その他) (82.8% (n=29)) が低い傾向にあった。

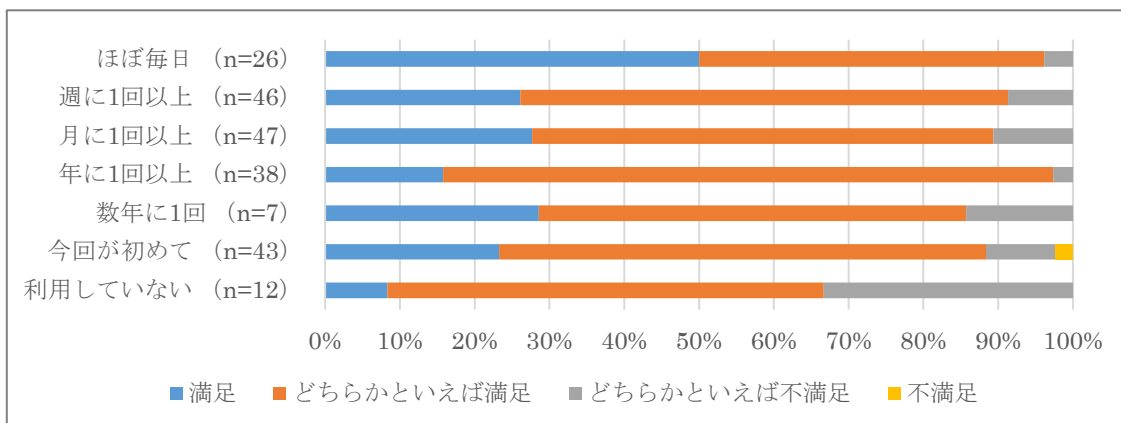


満足度 (属性別)

2-5-2 満足度 (利用頻度別)

また、満足度を利用頻度別に見ると、月に 1 回以上利用している回答者 (「ほぼ毎日」、「週

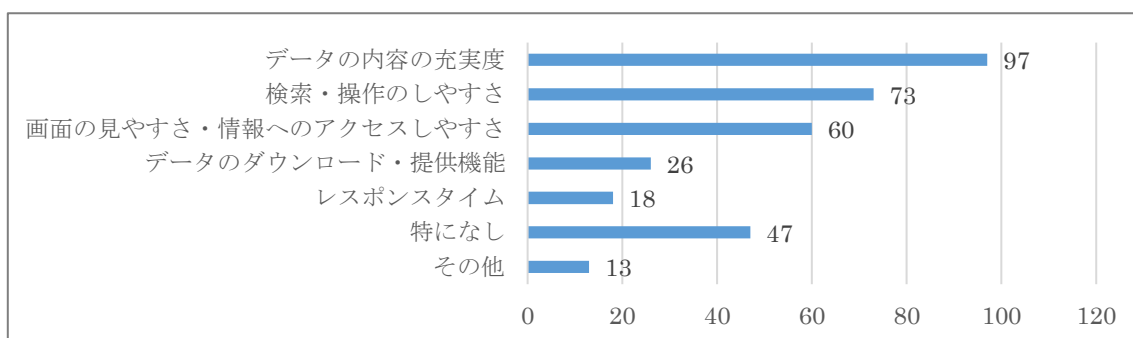
に1回以上」又は「月に1回以上」と回答)の満足度が92%であり、特に「ほぼ毎日」と答えた回答者の満足度は96%だった。その一方、「今回が初めて」、「利用していない」と答えた回答者の満足度は、それぞれ88%、67%だった。



満足度 (利用頻度別)

### 2-6 Web NDL Authorities への意見、要望

特に改善・充実すべき点 (選択式、複数回答可) は、「データの内容の充実度 (97件:44%)」、「検索・操作のしやすさ (73件:33%)」、「画面の見やすさ・情報へのアクセスしやすさ (60件:27%)」の順に多かった。なお、「特になし (47件:22%)」を選択した回答者の大半 (45件) が、「満足」又は「どちらかといえば満足」を選択していた。



特に改善・充実すべき点 (複数回答可) (n=219)

特に改善・充実すべき点 (自由記述) や意見・感想 (自由記述) に寄せられた主な意見は、次のとおりである。なお、利用頻度が低い回答者の中に「Web NDL Authorities の目的や検索方法の説明が少なく、よく分からない」といった意見が散見されたほかは、利用頻度又は満足度と改善要望、意見・感想の内容との間に目立った関係性は見られなかった。

#### ① 典拠データの拡充

##### <作成対象の拡大>

件名付与資料群の拡大、著者標目採用範囲の拡大 (雑誌記事索引等)、データ件数の拡充

##### <内容の拡充>

生没年や経歴等の注記等の充実 (情報が足りず人物が特定できないとの声が複数あり)、別名に読みを付与してほしい

LCCN の追加、LCSH とのリンクの充実 (LCSH とのリンクを評価するとの意見あり)、

#### ② 機能拡張、検索・表示

##### <機能の拡張>

自動で検索窓にカーソルを移動してほしい、人名・団体名データの一括ダウンロード機能 (SPARQL では慣れていないとうまく抽出できない)

## &lt; 検索・表示等 &gt;

完全一致検索・マイナス検索機能の追加、NDL オンラインへの著者名検索・件名検索でヒットしないものは検索ボタンを無効化してほしい、デジタルコレクションの肖像データを表示してほしい、典拠種別（「著作」と「統一タイトル」）の違いを分かりやすく表示してほしい、読みの根拠をわかりやすく表示してほしい

## ③ システムの連携に関すること

他の関係機関との連携を求める、没年情報のデジタルコレクションへの反映、NDL サービスへのリンク、NDL 内の他のサービスとの連携強化

## ④ その他

広報の強化（Web NDL Authorities の存在が知られていない、一般向けの周知の充実）  
NDL オンラインでも典拠 ID から検索できるようにしてほしい  
このほか、他サービスに関する回答（特に、資料のデジタル化）が複数あり